

人生百年時代と健康格差  
—とくに「死」の健康格差—

高木 廣文  
天使大学 特任教授・副学長

日本学術会議 2011 年提言「わが国の健康の社会格差の現状理解とその改善に向けて」で、①保健医療福祉政策において健康の社会格差を考慮すること、②健康の社会格差のモニタリングと施策立案の体制整備、③保健医療福祉の人材養成に健康の社会格差の視点を含めること、④国民参加による健康の社会格差に向けての取り組みの推進、⑤健康の社会格差に関する研究の推進、をあげているが、これらの主な原因は経済格差、すなわち貧困に起因するものである。「人づくり革命 基本構想」人生 100 年時代構想会議 (2018.6) では、経済格差の是正のために、①幼児教育の無償化、②高等教育の無償化、③大学改革（質の向上、経営力強化、大学の連携・統合等）、④リカレント教育、⑤高齢者雇用の促進、をあげているが、根本的な格差是正に繋がるのか疑問があるだろう。

ここでは、視点を変えて、「生老病死」に関わる健康格差の問題について、とくに生老病死の中でも、「死」の格差について考えてみたい。不安なく人生の最期を迎えるには、どのようなケアが必要なのだろうか。最近では、スピリチュアルケアがよく話題になるが、多くはキリスト教的考えに基づくものと考えられる。日本人にとってのスピリチュアルケアは如何にあるべきかを考えたとき、その根本になると考えられる弘法大師空海思想からスピリチュアルケアへの展開が、現在でも有用なのではないかと思われる。ここでは、空海の著作の中から「秘蔵宝鑰（十住心論）」と「即身成仏義」を中心に考察する。

